

2025 年 12 月 12 日 第 3536 回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 山下 会長
<斉 唱> 「我等の生業」
<ゲスト紹介> *森 繁 建 (たつる) 様
<ビジター紹介> *
<会 長 報 告> *第6回理事会 報告
*ガバナー事務所より
・2028-2029年度ガバナーノミニー確定宣言
三荒 弘道 会員 (平塚ロータリークラブ)
<委員長報告> *地区インターアクト 杉浦委員より
インターアクト委員会/アクターズミーティング/
青少年交換委員会合同クリスマスパーティー報告
<幹 事 報 告> *年忘れ家族会 会費について
<出 席 報 告> *出席委員会 加賀本副委員長から12月12日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
114名	103名	64名(4名)	39名	3名	65.05%

メイクアップ：鈴木(孝)会員 理事役員会出席 角井、真野両会員 親睦旅行参加

<ニコニコ報告>

- ・三 役 森繁 建様、ようこそ横須賀へ！そして横須賀ロータリークラブへ。心より歓迎申し上げます。本日の卓話30分では話しかれないかもしれませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。
- ・木 村、井 上、八 巻、梁 井、佐久間、江 口、杵 渕、長 尾、
松本 剛、小 澤、権 田、高橋 豊、森、北 村、吉田 剛、宮 島、澤 田、
小佐野、杉 浦、齋藤 豊、齋藤 剛、若麻 績、藤 村、徳 永、石 川、岩 崎、
田 邊、田 中、竹 株、八 木、三 堀、加賀本、前 田、齋藤 剛、萩 原 各会員
本日は森繁 建様による「森繁家と横須賀」という興味深い卓話です。どうぞよろしく
お願いいたします。
- ・梁 井 会員 誕生月祝いとして
- ・梶 木、高橋 豊、江 沢、小山 剛、高橋 豊、小林 (-)、椿、三 井、加賀本 各会員
12月14日午前11時より横須賀中央Yデッキ下で「歳末たすけあいチャリティーカ
レー」が開催されます。横須賀市内の海軍カレーはもちろん海上自衛隊の各艦艇宣伝カ
レーも提供されます。皆さんお出掛けになられたら如何でしょうか。
- ・大野 剛、堀 川、加藤 剛、石 田、高橋 豊、川 名、比 護 各会員
横須賀市文化会館が開館60周年を迎え特別企画が12月19日、20日で開催されま
す「8時だよ全員集合」の公開収録が行われたり、1971年には結婚式場として
1166件の利用があったそうです。合わせてタウンニュースの人物風土記パネル展も
開催されるようです。

<卓 話> 「森 繁 家 と 横 須 賀」

森 繁 建 様

ご紹介いただきました森繁建と申します。今日はお招き頂きまして誠にありがとうございます。父、森繁久彌は96歳まで生きましたものですから、2時間でも3時間でもネタはつきないですが、本当にほんの一部でございますけれども、短い時間お話をさせていただきます。「横須賀」と言いますと佐島マリーナのことを思い出します。父が突然思いついて建設しました。私もよく覚えていないのですが昭和39年のオリンピック、その前年あたりぐらいから兄と飛行場からセスナ機をチャーターして、三浦半島を飛んでもらって、そこをパイロットの方にこれはどの辺ですか？というようなことを聞いて、後から陸路で佐島に行ってここがいいのではないかと決めました。まさに全くスポンサーなしで私財を全部つぎ込んで、今の五洋建設にお願いしました。ようやくその頃マリブームのブーぐらいまで来たところだったものですから、なかなか経営が難しいのです。ヨットハーバーを作り、宿泊施設も作り、レストランも和食と洋食のレストランを二つ作り、プールも作っ



て整ってはいます。夏は沢山お客さんがいらっしゃいますが冬は閑古鳥が鳴いておりました。父は当時「社長シリーズ」をやっておりお金は入ってくるのですが全部それをつぎ込んでおりました。そんなことで大変苦労はしていましたが、父の夢でありますヨットハーバーの経営を家族皆でやりました。同時に、オリンピックは江ノ島沖でヨットレースをやるので、だいたいどの国でもそこには一番大きな良い船を持っていって母船にするのだ、日本にはそういう船はないので作るぞと言うわけです。横須賀の林兼造船に依頼して今でも日本で一番大きな船で全長21.5mですね。マストの高さが水面から18m、6階建てぐらいのところ。これにも数千万のお金をつぎ込んでいました。ちょうど父が9月に大阪でお芝居があつて、帰りにその船で東京まで帰りたいということで、兄とクルーの何人かであの船を大阪に西宮港まで運びました。父も喜んでいたのですが台風が来ているらしいと。今まで上陸した日本の台風で三番目の大きさ、しかも大阪直撃という珍しい台風で、風速60mぐらい吹いて流れてきた漂流物でプロペラが絡まってエンジンが止まってしまい船は流されました。私はたまたま東京にいましたが、父と母も乗っていたのです。七、八名のクルーが乗っていましたが奇跡的に無傷でした。船は全く大変なことになりオリンピックには間に合わずということでした。映画以外でも色々なことをする人でした。父は満州から引き上げてきましたが、その前は大阪のいいところのボンボンでございまして腹違いの兄弟が上に4人いて、実の兄弟が3人いるのですが一番下なのです。父が役者になりたいなんて言うのとんでもないということで、親戚から総スカンを食いました。隠れながら早稲田の演劇部で演劇をかじっておったのですがいよいよ兄の遺産も食い尽くしてどうにもならない時にNHKアナウンサーの試験が始まって、それに応募しました。4次か5次の試験がありましたが、それに見事受かって外地へ行きたいということで結局、父は満州を希望しましてアナウンサーをしたわけです。結果的にはあの敗戦で、着のみ着のまま帰ってきました。父には何も残さないぞと言われて、本当に何も残さなかったです。マリーナを作ったりヨットを作ったりしていました。父の考えの中で教えてもらったことは「過去は振り返るな」ということです。良いことも悪いことも済んだことは忘れろと言うのです。あの時良かったのだよという話をしたって、それはもうあの時だろうという考え方です。「一つの目では星を見ろ、一つの目では土を見ろ」と。理想を追いながら足元をしっかりと見よという事ですけれどもそういうことをよく色紙に書いてくれました。父は実は23冊随筆の本を書いており、ものすごく文章を書くのは上手かったです。映画も好きでしたが芝居も好きで、私にこういう話をしてくれたことがありました。「おい、チケットで一番高いのはいくらするか知っているか。1万円くらいかな、というと「我々は、2万円の芝居をしなくては行けないのだ。なぜか」と奥さんたちが今度、森茂の芝居を見に行きましようとなりどうせ行くなら一番いい席で1万円買ったと。美容院へ行くだろう。何千円かかるような電車賃もかかる。早く着いたらちょっとお茶でも飲みましょう。お昼はお弁当、こういうお弁当食べようって言ったら、もう軽

く2万円行くのだと。自分たちは2万円の仕事をしなければいけないのだということを言っていました。そして舞台の上では燃え尽きなきやいけないのだ、燃え残しちゃいけないのだと全部燃え尽くして、そして帰ってまた薪を集めてまた翌日行って燃え尽きるのだ、と言っていました。とにかく今日一生懸命やるということに非常に費やしていたような気がします。私共が父からよく言われたことは「分け隔てをしない」という事です。父は頂き物をしますと必ず自室で礼状を書くのですね。90過ぎてても書いていましたが、実は左の目がよく見えないのです。「屋根の上のバイオリン弾き」という芝居を900回やったのですが、その時に真っ暗な中でスポットライトを神様に見立ててセリフをしゃべるシーンが12分があるのですが、律儀にそのライトを見ていた為左の眼が見えなかったのです。そのような中でお礼状を書いていましたが、意外にファンの方が多いのですね。楽屋口で待っていたら先生が「こんな遅くまで待っていてくれて悪かったね」と言って、名前まで書いてサインしてくれ、私がちょっとした物をお送りしたらまた喜んで葉書をくださって。それからずっとお付き合いがあるのですという話を聞いたことがあります。リアルタイムで芝居をご覧になったことのない方が「森繁さんって有名な方のお葬式に出てよく弔辞読んでいる方よね」と言われたことがあるのですが、葬式にはよく出て行っていましたけれども、実はあの3倍くらいは葬式に行っていました。あの大工さんの親方が亡くなったとか照明のなんとかさんが亡くなったというと90歳になっても冬でも行くのです。僕はもうご無礼してもいいのではないかと、言うところ「俺が葬式に行くと葬式に箔がつくのだ」と本当によくお葬式には行っていました。父は96歳で亡くなったのですが、それまで年の割にはステーキ大好き、トロ大好き、チーズ大好き、ベーコン大好きみたいな健啖家で非常に体も丈夫で元気でした。5月に九州で誕生日を迎えた後の7月に孫や曾孫と一緒にたまたま食事をする日があったのですが、突然誤嚥して救急車で病院に運ばれました。

96歳までしたい事をして文化勲章まで頂き、本当に満足した一生だと思いましたが、姉とも考えてこのままで様子を見るしかないという話をして、結果的に苦しみもなく11月10日に静かに息を引き取りました。私は葬儀にどこまで呼ぶかものすごく悩みましたが、最後腹を決めて親戚だけ呼びました。弔辞は東宝の会長さんである松岡功さんをお願いしたいけれども、もし駄目なら結構ですと言いました。松岡さんにお引き受け頂きましたが、この三つが先ほど話した中の大きなあの結果なのです。特別扱いしてはいけないのですね。申し訳ないことしたかなとも思いましたが、やっぱり父のあの教えだったかなと思って自分としては大変満足した葬儀が行えたように思っています。一番前に小泉純一郎さんがいたのです。別に小泉さんは来賓としてではなく、実はあの方が一番初めに来たのですね。実は、小泉さんは亡くなって3日目ぐらいにぜひお線香あげさせて頂きたいという事で自宅にお見えくださいました。最初は父でしたけれども、最後私が小泉さんとの関係を作らせて頂いて大変有難く思っております。そんなことで横須賀と小泉さんとの関係でも、私どもとしては忘れがたい方でいらっしゃいます。父が亡くなった翌年に世田谷区から電話がかかってきて、森繁さんのお宅から駅までの670mを『森繁通り』としたいがよろしいでしょうかと言われました。喜んでお受けいたします、と申し上げました。小泉進次郎さんが防衛大臣になり、非常に水を得た魚のようですね、最近国会中継が楽しみでよく観るのですが、本当に素晴らしい答弁をされています。そろそろお時間ですね。皆様良いお年を迎えていただきたいと思います。またこの横須賀ロータリークラブが益々発展されることを祈念いたしております。有難うございました。

<閉会・点鐘> 13:30 山下 会長

週報担当 高橋 岐 武